

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
国語		論理国語	論理国語		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	一斉	
履修条件		2・3年次継続履修			
教材名・副教材名		論理国語（東京書籍）頻出漢字マスター3000（尚文出版）デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店） イラストとネットワークで覚える 現代文単語 げんたん（いっずな書店）			
指導到達目標		<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>1.生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>2.深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。</p> <p>3.言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>			
講座内容		<p>○論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>○主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解する力を培う。</p> <p>○個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるように工夫する力を身につける。</p> <p>○論理的な文章や実用的な文章を読みその内容や形式について批評したり討論したりする能力を育成する。</p> <p>○自然、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて新たな観点から自分の考えを深め、読書に親しむ態度を身につける。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとし、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○授業態度の観察 ○定期考査 ○小テスト ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○課題の点検 ○発表態度の観察	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○発表態度の観察	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	①発見への誘い 《読者》《芸術》 ②言語と認識 《言語》《科学》 ③人間を見つめる 《情報》 ④学問のまなざし 《環境》	○評論を読み、表現の特徴に注意して筆者の主張を的確に捉え、自分に引き寄せて考える。 ○具体的な事例と筆者の意見に注意して読み、言語と自我の構造について考える。 ○挙げられている事例と筆者の分析の関係に注意して読み、人間関係の在り方について考えを深める。 ○「環世界」などの概念に注意しながら筆者の主張を理解し、環境について理解を深める。 ○社会と人間の在り方を主題とする評論を読み、自己の価値観と照らし合わせて考える。 ○絵画や地図を参考にして評論を読み、構成・展開・要旨を的確に理解する。
	第2回		
	第3回		
後期	第4回	⑤社会を捉え直す 《近代》《社会》 ⑥イメージを読む 《芸術》《メディア》 論理の力	
	第5回		

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
国語		古典探究	古典探究		3
履修学科	履修年次	期	履修形態		
普通科	2	通期	一斉		
履修条件		2・3年次継続履修			
教材名・副教材名		精選 古典探究 古文編（東京書籍） 精選 古典探究 漢文編（東京書籍） 新修 古典文法（京都書房） 必携 新明説漢文（尚文出版） 入試対策ベストセレクション古文単語325（尚文出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
指導到達目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 1.生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 2.論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 3.言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
講座内容		○古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにする。 ○古典の作品や文章の種類やその特徴、構成や展開の仕方、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。 ○作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○授業態度の観察 ○定期考査 ○小テスト ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○課題の点検 ○発表態度の観察	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○発表態度の観察	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	説話1 (古文) 小話 (漢文) 歌物語 (古文) 詩1 (漢文) 随筆1 (古文)	<ul style="list-style-type: none"> ○説話を読み展開や内容のおもしろさを味わう。 ○話の展開や内容のおもしろさを味わう。 ○作品中の和歌が持つ意味に着目し、歌物語の特色を理解する。 ○漢詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。 ○随筆に書かれている情景や出来事を的確に捉える。 ○『史記』を読み、歴史上の人物の行動や心情について考える。 ○朗読などを通して、軍記物語の内容や表現の特色への理解を深める。 ○儒家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。 ○随筆に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえて、考えを深める。 ○発想や表現の特色を理解し、小説のおもしろさを味わう。 ○日記を読み、作者の境遇や出来事を的確に捉える。 ○作り物語の内容を的確に読み取り、登場人物の行動や心情を捉える。 ○詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わう。 ○作品の特色に注意しながら、歴史物語の内容を的確に読み取る。 ○道家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。 ○詩歌に関するさまざまな作品を読み、考えを深める。 ○文章の構成や展開を理解し、論旨を的確に捉える。 ○作品の背景も踏まえながら、近世小説の内容を的確に読み取る。
	第2回	史記1 (漢文) 軍記物語 (古文) 思想1 (漢文) 随筆2 (古文) 小説1 (漢文)	
	第3回	日記1 (古文)	
後期	第4回	作り物語1 (古文) 詩2 (漢文) 歴史物語1 (古文) 思想2 (漢文) 詩歌 (古文)	
	第5回	文1 (漢文) 近世小説1 (古文)	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名	科目名	講座名(校内名称)		単位数
公民科	公共	公共		2
履修学科	履修年次	期	履修形態	
普通科	2	通期	一斉	
履修条件				
教材名・副教材名	高等学校公共（第一学習社） フォーラム公共（とうほう）			
指導到達目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
講座内容	<p>○現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、論理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>○現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>○よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から論理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	○資料を通し、現代社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる。	○探究的な活動を通して、他者の考えを踏まえたり取り入れたりして、考えたことを再構築しながら議論することができる。その活動を通して、よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
育てたい生徒像（資質・能力）との関連	幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法	○定期考査 ○小テスト ○発問評価	○定期考査 ○グループディスカッション	○小テスト ○提出物 ○授業参加の態度	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期 後	第1回	第1編 公共の扉 第2編 自立した主体としてより社会の形成に参画する私たち ○主題1 法や規範の意義と役割 1 私たちの生活と法 2 法と基本的人権 3 自由・平等と法・規範 4 法をよりよく変えていくために ○主題2 契約と消費者の権利・責任 1 様々な契約と法 2 消費者の権利と責任 ○主題3 司法参加の意義 1 裁判所と人権保障 ○主題4 政治参加と公正な世論の形成 1 選挙の意義と課題 2 政治参加と世論形成 3 国会と立法 4 内閣と行政の民主化 5 地方自治と住民の福祉	○公共的な空間において、社会に参画するための自立した主体となることの意義を考える。 ○法を通して、身の周りの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について理解し、その解決について考察する。 ○対等な当事者間の合意にもとづく契約がなぜ必要なのかを理解する。 ○個人や社会の紛争を法に基づいて解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。 ○民主主義を推進するために、私たちが果たすべき責任・選挙の意義や課題、世論の形成や政党の役割や主権者である国民と国会・内閣の関係、地方自治の役割を理解する。
	第2回	○主題5 国際社会と国家主権 1 国家と国際法 2 国境と領土問題 3 国際連合の役割と課題 ○主題6 日本の安全保障と防衛 1 平和主義と安全保障 2 核兵器の廃絶と国際平和 ○主題7 国際社会の変化と日本の役割 1 今日の国際社会 2 人種・民族問題と地域紛争 3 国際社会における日本の役割	○主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解し、現在生じている領土問題の背景と現状・国際連合の取り組みを考える。 ○日本国憲法の平和主義の下、日本の安全保障体制の変容とその背景にある国際社会の変化を理解して、軍縮に向け私たちには何が必要かを考える。 ○国際社会を実現するために必要な日本の役割を理解し、人種・民族問題と地域紛争の背景・現状を踏まえ、私たちに何ができるかを考える。
	第3回	○主題8 雇用と労働問題 1 私たちと経済 2 労働者の権利と労働問題 ○主題9 社会の変化と職業観 1 技術革新の進展と産業構造の変化 2 企業の活動 3 農林水産業の現状とこれから ○主題10 市場経済の機能と限界 1 市場経済の経済運営 2 市場経済のしくみ 3 経済発展と環境保全 4 経済成長と国民福祉	○経済的意思決定が将来の選択に繋がることを考察し、労働問題や社会の変化の背景を理解する。 ○グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどのように考えていけば良いかを考える。 ○需要・供給の関係を通し、公正で自由な資源配分を実現できるしくみを理解する。経済活動から、私たちが豊かに暮らすための指標について考える。
	第4回	○主題11 金融の働き 1 金融の意義や役割 ○主題12 財政の役割と社会保障 1 政府の経済的役割と租税の意義 2 社会保障と国民福祉 ○主題13 経済のグローバル化 1 国際分業と国際貿易体制 2 国際収支と為替相場 3 経済のグローバル化と日本 4 地域的経済統合の動き 5 国際社会における貧困や格差 6 地球環境問題	○金融市場や中央銀行が日本経済にどのような役割を果たしているかを理解し、投資の意義を考える。 ○少子高齢化が進む中、財政や社会保障を持続可能なものにするために政府はどのような役割を果たしていくべきか、その課題を含め考える。 ○経済のグローバル化や、地域経済統合の動きを通して、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきかを考える。
	第5回	7 資源・エネルギー問題 8 国際社会のこれから 第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私	○持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立する主体となることに向けて、幸福・正義・公正などに着目して現代の諸課題を探究する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指 導 と 評 価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
外国語		英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅡ		4
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	習熟度別	
履修条件					
教材名・副教材名		LANDMARK English CommunicationⅡ(啓林館) LANDMARK English CommunicationⅡワークブック(啓林館) 総合英語 FACTBOOK(桐原書店) 速読英単語 必修編(Z会)			
指導到達目標		日常的・社会的な話題について、 ○必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 ○必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 ○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。 ○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 ○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。			
講座内容		○教科書の本文を利用して、「読む」「書く」「聞く」「話す(やりとり)」「話す(発表)」技能を育成し、英語を総合的に学ぶ。 ○さまざまな題材を用いて英語による言語活動を行い、英語の学習を通じて、自らの力で考え、判断し、表現できる力を培う。 ○1年次で学んだ学習事項を系統的に整理しながら、2年次での学習内容へスムーズに移行できるように配慮するものとする。 ○習熟度別授業では、基礎学力の定着を図るとともに高校の内容を深化させながら発展的発信力の養成も視野に入れる。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	各トピックの内容で使われる表現の意味やはたらきを理解している。また、それぞれの表現について、その役割に応じて活用する技能を身につけている。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○定期考査 ○パフォーマンステスト ○小テスト	○定期考査 ○パフォーマンステスト	○小テスト ○提出物 ○授業態度の観察	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	Tips for Presenting Your Ideas Lesson 1 A Swedish Girl's Discoveries in Japan	<ul style="list-style-type: none"> ○英語を理解し、英語で表現する態度や能力を養う。 ○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけさせると同時に、的確かつ簡潔に答える能力を高めさらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せる力を身につけさせる。 ○授業中はペアやグループでの活動において、英語で意欲的かつ積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を養う。
	第2回	Lesson 2 A Message from Emperor Penguins Lesson 3 Tokyo's Seven-minute Miracle	
	第3回	Reading 1 The Selfish Giant Lesson 4 Seeds for the Future Lesson 5 Language Change over Time Lesson 6 Gaudi and His Messenger Lesson 7 Letters from a Battlefield	
後 期	第4回	Lesson 8 Edo: A Sustainable Society Lesson 9 Biodiesel Adventure: From Global to Glocal	
	第5回	Lesson 10 Our Future with AI Reading 2 Gender Equality Is Your Issue, Too	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
保健体育		体育	体育		3
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		現代高等保健体育（大修館書店）			
指導到達目標		<p>○生涯にわたって運動，スポーツを継続していくために必要な技能・競技のルール・試合の進め方などを身につけることができる。</p> <p>○課題解決のために思考し，判断するとともに自己や仲間の考えたことを表現することができる。</p> <p>○仲間と競争や協働の経験を通して，互いに認め合い，高め合うことができる。</p>			
講座内容		<p>講座内容</p> <p>1 「体づくり運動」では，自己の体力や生活に応じて，体の調子を整え体力の向上を図る。</p> <p>2 「体育理論」では，体育・スポーツに関する知識を理解できるようにし，運動の合理的な実践及び健康の増進と体力の向上に活用することができる資質や能力を身につける。</p> <p>3 選択制授業では，生徒一人ひとりに運動の楽しさや喜びを深く味わうことが出来るよう，また自分の能力・適性・興味・関心に応じた運動の行い方や楽しみ方や学び方を計画的に工夫する力をより一層育てる。</p> <p>履修上の注意</p> <p>本校規定の体操服（柔道着），体育館シューズ，グラウンドシューズをきちんと着用し，指導教員の指示をよく聞いて，安全に留意して授業を受けること。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	種目の特性やルール，試合の進め方等を理解し，実践することができる。また，各種目に必要な技能や体力を身につけ，努力を怠らず向上させることができる。	課題を発見し，話し合い活動へ積極的に関わったり，課題解決に向けた提案を行ったりすることができる。また，自己の考えを仲間に伝えることができる。	準備や片付け，グループや集団の中での協力・競争・協働など主体的かつ積極的に学びに向かうことができる。また，健康安全に留意しながら活動を行おうとする。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 理論的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○スキルテスト ○授業観察 ○まとめプリント相互評価 など	○授業観察 ○まとめプリント記述 ○相互評価 など	○授業観察 ○選択ノート ○まとめプリント ○相互評価 など	

年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期		体づくり運動 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画	○様々な競技の特性に触れ、技能・競技のルール・試合の進め方などの知識を習得することができる。 ○仲間とともに課題解決に向けて思考し、自分の考えや思いを表現、伝えることができる。 ○授業中はグループ活動やチームでの活動も多く行うことから、仲間と競争や協働の経験を通して主体的かつ意欲的に活動を行う態度や人間力を身につけることができる。 ○生涯にわたって運動やスポーツを継続していきたいと思うような学習内容を多く取り入れて競技の特性や魅力に触れることができる。
		選択制授業前期 選択種目 柔道・ダンス・器械体操・陸上競技 卓球・バドミントン・バレーボール・バスケットボール ソフトボール・テニス	
		ダンス 体づくり運動	
		選択制授業中期 選択種目 柔道・ダンス・器械体操・陸上競技 卓球・バドミントン・バレーボール・バスケットボール ソフトボール・テニス	
後 期		体育理論	
		選択制授業後期 選択種目 柔道・ダンス・器械体操・陸上競技 卓球・バドミントン・バレーボール・バスケットボール サッカー・テニス	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
保健体育		保健	保健		1
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		現代高等保健体育（大修館書店） 図説現代高等保健（大修館書店）			
指導到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ○生涯の各段階で健康課題が変化することを理解するとともに、健康が保持増進される仕組みなどの知識を身につけるとともに、日常生活の中に実践できる技能を身につけることができる。 ○健康課題の発見や課題解決に向けて思考、判断するとともに自らの考えを仲間に伝え、共有することができる。 ○生涯を通じて、自他の健康の保持増進に興味、関心を持ち、心身ともに健康的な人生を送ろうとする態度を養うことができる。 			
講座内容		<p>講座内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生涯を通じる健康」では、思春期から中高年期までに出会う様々な健康問題について学ぶとともに、労働と健康との関係や、働く人々の健康が保持増進される仕組みなどについて学習する。 ○「健康を支える環境づくり」では、周囲の自然環境や食品に関する健康問題を学ぶとともに、社会の制度や保健活動といった社会環境のあり方について学習する。また、社会全体の健康を高めるために、私たち一人ひとりが環境づくりに積極的に参加する意義やその方法について学習する。 <p>具体的な単元：「思春期と健康」「妊娠・出産と健康」「働くことと健康」 「環境と健康にかかわる対策」「食品衛生にかかわる活動」など</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	個人及び社会生活における健康・安全について理解し、その技能が身に付いている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目標や状況に応じて他者に伝えることができる力が身についている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える健康づくりを目指し、課題の解決に向けた学習づくりに主体的に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 理論的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○授業ノート・プリント ○小テスト ○授業観察 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業ノート・プリント ○授業観察 ○課題学習における制作物や提出物 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○提出物 ○授業ノート・プリント ○授業観察 など 	

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
外国語		論理・表現Ⅱ	論理・表現Ⅱ		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	習熟度別	
履修条件					
教材名・副教材名		<ul style="list-style-type: none"> ○FACTBOOK English Logic and Expression Ⅱ (桐原書店) ○FACTBOOK English Logic and Expression Ⅱ Workbook (桐原書店) ○総合英語 FACTBOOK(桐原書店) ○速読英単語 必修編 (Z会) 			
指導到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な語句や文を用いて、意見や気持ちを伝え合うやり取りを続けたり、予測できる日常的な状況について、伝え合ったりすることができる。 ○基本的な語句や文を用いて、視覚的補助を利用しながら自分の生活に直接関連のあるトピックについて短いスピーチをしたり、意見や行動計画を、理由を挙げて短く述べたりすることができる。 ○基本的な語句や文を用いて、身の回りの出来事や自分に関係することについて簡単な描写をしたり、説明文や物語について、感想や意見などを短く書くことができる。 			
講座内容		<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の本文を利用して、「書く」「話す(やりとり)」「話す(発表)」という3領域を育成し、発信能力を培う。 ○さまざまな題材を用いて英語による言語活動を行い、英語の学習を通じて、自らの力で考え、判断し、表現できる力を培う。 ○高校1年次で学んだ学習事項を系統的に整理しながら、高校2年次での学習内容へスムーズに移行できるように配慮するものとする。 ○習熟度別授業では、高校の内容を深化させながら発展的発信力の養成も視野に入れる。 			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	各トピックの内容や各文法事項の用法を理解している。 各文法項目をタスクの中で適切に使う技能を身につけている。	場面・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で論理的に詳しく話したり書いたりしている。	学習した表現を活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりしようとしている。 自分の発話や書いたりしたものを振り返ろうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○パフォーマンステスト ○小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○小テスト ○提出物 ○授業態度の観察 	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	Part 1 Unit 1 How should we lead a healthy lifestyle? Unit 2 Steps we can take to Zero Hunger TL1 Donating the right kind of food	<ul style="list-style-type: none"> ○英語を理解し英語で表現する態度や能力を養う。 ○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけると同時に、的確かつ簡潔に答える能力を高め、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せるようになることを目指す。 ○授業中は英語力にかかわらずペア(グループ)ワークで英語を用いて意欲的かつ積極的に表現しようとする姿勢が求められる。 ○分からない単語やフレーズについてはChromebookで調べ、次回必ず表現できるように徹底的に復習する。
	第2回	Part 2 Unit 3 What are good and bad sides of urbanization? Unit 4 Is your city sustainable enough? TL2 Well-managed city for the future	
	第3回	Part 3 Unit 5 Which should get more priority: culture or the environment? Unit 6 How to live a plastic-free life TL3 Thinking globally, acting locally	
後 期	第4回	Part 4 Unit 7 Helping others at home and abroad Unit 8 Challenges to equality TL4 The growing role of charities	
	第5回	Part 5 Unit 9 Produce locally, consume locally Unit10 Sharing as one way to create new value TL5 community living, community thriving	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)	単位数
地理歴史科		世界史探究	世界史探究	3
履修学科		履修年次	期	履修形態
普通科		2	通期	選択
履修条件		歴史総合を履修していること		
教材名・副教材名		詳説世界史（山川出版社）		
指導到達目標		社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		
講座内容		<p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>		
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことができている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができている。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力
評価方法		○定期考査 ○小テスト ○発問評価	○定期考査 ○グループディスカッション	○小テスト ○提出物 ○授業参加の態度

年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	文明の誕生 古代オリエント文明／南アジアの古代文明 中国の古代文明／南北アメリカ文明 中央ユーラシア（草原とオアシスの世界） 秦・漢帝国／中国の動乱と変容／東アジア文化圏の形成 仏教の成立と南アジアの統一国家 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 東南アジア世界の形成と展開	○主題学習や探究的学習の活動を多く設けることで、主体的・対話的で深い学びの機会を増やすとともに、思考・判断・表現の力を評価する機会を増やす。 ○明確な学習目標を持って各種史資料（文章・絵画・図表など）を提示し、歴史における時代的な変化、地域的な特色の豊かさを意識させるとともに、史資料を読み解く視点を身に付けさせる。 ○絵画や資料などの文化資料を読み解くことで、当時の社会の様相や、社会と文化が相互に与えた影響、当時の文化が現在に与えた影響を理解できるようにする。 ○同時代的におこった社会構造の変化や、現代に至る世界の一体化の過程、諸地域の相互関係を理解できるように促す。
	第2回	イラン諸国家の興亡とイラン文明 ギリシア人の都市国家／ローマと地中海支配 キリスト教の成立と発展 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 イスラーム教の諸地域への伝播・西アジアの動向 ヨーロッパ世界の形成／西ヨーロッパの封建社会 東ヨーロッパ世界の展開／西ヨーロッパ世界の变容 西ヨーロッパの中世文化	
	第3回	アジア諸地域の自立化と宋／モンゴルの大帝国 アジア交易世界の興隆／清代の中国と隣接諸地域 オスマン帝国とサファヴィー朝・ムガル帝国の興隆 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容 ルネサンス／宗教改革／主権国家体制の成立 オランダ・イギリス・フランスの台頭／北欧・東欧の動向	
後 期	第4回	科学革命と啓蒙思想／産業革命 アメリカ合衆国の独立／フランス革命とナポレオンの支配 中南米諸国の独立／ウィーン体制 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 アメリカ合衆国の発展／19世紀欧米文化 西アジア地域の变容 南アジア・東南アジアの植民地化 東アジアの激動 第2次産業革命と帝国主義 列強の世界分割と列強体制の二分化 アジア諸国の変革と民族運動	
	第5回	第一次世界大戦とロシア革命 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 アジア・アフリカ地域の民族運動 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 第二次世界大戦／新しい国際秩序の形成 冷戦の展開／第三世界の台頭とキューバ危機 冷戦体制の動揺／産業構造の変容 冷戦の終結／今日の世界／現代文明の諸相 地球世界の課題の探究	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
地歴科		日本史探究	日本史探究		3
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	選択	
履修条件		歴史総合を履修していること			
教材名・副教材名		詳説日本史（山川出版社） ゼミナル日本史（浜島書店）			
指導到達目標		社会的な事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			
講座内容		<p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて想像したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○日本の歴史の展開について、時間軸の中での連続性や、地域と日本、世界の空間的な認識、各時代における政治経済・社会・文化・国際環境などの特色及び変遷を説明することができる。	○学習した基礎的な知識・概念を活用して、資・史料（文章・絵画・図表など）を活用して、多面的・多角的に考察し、そこから導き出される課題を把握し、その解決を視野に入れて、自己の意見や考えをまとめ論述することができる。	○探究的な活動を通して、他者の考えを踏まえたり取り入れたりして、考えたことを再構築しながら議論することができる。その活動を通して、日本国民としての想いや愛情、他国や他国の文化を互いに尊重することができる。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○定期考査 ○小テスト ○発問評価	○定期考査 ○グループディスカッション	○小テスト ○提出物 ○授業参加の態度	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	～ 第1回	<ul style="list-style-type: none"> ○第1章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 ○第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷 ○第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容 ○第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士 ○第5章 院政と武士の躍進 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権 	<ul style="list-style-type: none"> ○人類文化の発生以後の動きを、考古学の分野、東アジア世界との交流と関連付け考える。 ○地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容から理解する。 ○律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の変容を多角的・多面的に捉えて考察する。そのさい、国家仏教や東アジアとの関係に着目する。 ○摂関政治の成立とその特色・大陸文化の消化と末法思想を前提とした貴族文化の成立を理解する。武士の成長と荘園の拡大の関係を理解する。 ○後三条天皇登場の背景を理解し、新たな院政を生み出したことを理解する。また、平氏政権の特色や院政との相違点を踏まえ時代を通観する。
	～ 第2回	<ul style="list-style-type: none"> ○第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化 ○第7章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場 	<ul style="list-style-type: none"> ○鎌倉幕府の特徴を様々な史料の根拠を明確にして考察し、院政との相違を考え理解する。武士の成長、西国への発展を元寇による変化としてとらえる。 ○南北朝期の動乱から室町幕府成立の過程を、諸地域の動向を踏まえて理解し、庶民の台頭が社会秩序の変革の原動力として成長したことを考察する。
	～ 第3回	<ul style="list-style-type: none"> ○第8章 近世の幕開け 1 織豊政権 2 桃山文化 ○第9章 幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化 ○第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ヨーロッパ人の東アジア進出や、織豊政権の特色や意義を、世界史的背景を踏まえて考える。 ○江戸幕府の特徴を理解する。鎖国は単なる対外貿易の遮断ではないこと、町人の台頭が幕藩体制の動揺につながる背景となった点を理解する。 ○諸改革の意義とその影響を、雄藩の動きを前提として考察する。社会の変化に伴う文化の形成を理解する。
	～ 第4回	<ul style="list-style-type: none"> ○第11章 近世から近代へ 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府発足 ○第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立 ○第13章 近代国家の展開 1 日清日露戦争と国際関係 2 第一次大戦と日本 3 ワシントン体制 	<ul style="list-style-type: none"> ○列強の動向に伴う、国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して幕末を考察する。 ○明治政府の政治的改革及び、自由民権運動を通じた近代国家の形成過程を理解する。 ○日本の国際的地位の変化を諸外国の動向と関連づけて考察する。また、国際環境の推移を日本の立場に着目して理解する。
	～ 第5回	<ul style="list-style-type: none"> ○第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化 ○第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次大戦 ○第16章 占領下の日本 ○第17章 高度成長の時代 ○第18章 激動する世界と日本 	<ul style="list-style-type: none"> ○日清・日露戦争前後に資本主義国家の基礎が確立された過程、それに伴う国内の諸問題、大衆文化について理解する。 ○経済状況の変化が軍部の台頭につながったこと、平和で民主的な国際社会の実現の大切さを考える。 ○戦後の世界秩序を踏まえ、地域と日本、世界の空間的な認識、政治経済・社会・文化・国際環境などの特色を理解する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
地理歴史科		地理探究	地理探究		3
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	選択	
履修条件		地理総合を履修していること			
教材名・副教材名		新詳地理探究(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院) 最新地理図表GEO(第一学習社) データブックオブザワールド(二宮書店) 新地理要点ノート(啓隆社)			
指導到達目標		<p>① 地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因を捉える学習を通して、現代世界の諸事象の地理的認識を深めるとともに、系統地理的な考察方法を身に付ける。</p> <p>② ①をふまえ、選択した地域の特性とそこで発生する諸課題について捉える学習を通して、現代世界の諸地域の地理的認識を深めるとともに、地誌的な考察方法を身に付ける。</p> <p>③ ①、②をふまえ、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を構想する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。</p>			
講座内容		<p>① 自然環境、資源・産業、都市・村落、生活文化等を通して現代世界の特色を探る。</p> <p>② 現代の世界を地域(市町村規模、国家規模、州・大陸規模)を通して学ぶ。</p> <p>③ 現代世界の諸課題(国家間、日本の近隣諸国、環境・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題、民族・領土問題)を理解する。</p> <p>④ 地理という学習(教科)が世界を捉えるうえで重要であることを理解するとともに、世界の諸問題に対して考え、自分の意見を述べる。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	日本を含む世界の生活と文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、知識を身につけているか。	地理的事象を世界的視野に立って多角的、多面的に考察しているか。国際社会の変化に的確に対応し、公正に判断しうるか。	地理的事象について関心をもっていか。また、課題意識をもち、意欲的に追求しているか。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○定期考査 ○発問評価	○定期考査 ○グループディスカッション	○提出物 ○授業参加の態度	

年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	地形 気候 日本の自然環境 地球環境問題	<p>○主題学習や探究的学習の活動を多く設けることで、主体的・対話的で深い学びの機会を得るとともに、考・判断・表現の力を身につける。</p> <p>○明確な学習目標を持って各種史資料（文章・主題図・図表など）を提示し、地域的な特色の豊かさを意識するとともに、資料を読み解く視点を身に付ける。</p> <p>○「地理的な課題」を考察するために不可欠である「位置や分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存作用」「地域」の諸観点を、具体的な主題を絡めながら学習し、現代的な諸課題に対する関心を深める。</p>
	第2回	農林水産業 食料問題 エネルギー・鉱産資源 工業 第3次産業	
	第3回	交通・通信 観光 貿易と経済圏 人口 人口問題 村落と都市 都市・居住問題	
後 期	第4回	衣食住 民族・宗教と民族問題 国家の領域と領土問題 地域の考察方法 地誌的な考察方法 中国 -項目ごとに整理して考察 韓国 -項目ごとに整理して考察 ASEAN諸国 -項目ごとに整理して考察 インド -経済成長に関連づけて考察 西アジアと中央アジア -地域を比較して考察	
	第5回	北アフリカとサハラ以南アフリカ -地域を比較して考察 EU諸国 -項目ごとに整理して考察 ロシア -国家体制の変化に関連づけて考察 アメリカ合衆国 -項目ごとに整理して考察 ラテンアメリカ -歴史的背景と関連づけて考察 オーストラリアとニュージーランド -国を比較して考察	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)	単位数
数学		数学Ⅱ	数学Ⅱα	4
履修学科		履修年次	期	履修形態
普通科		2	通期	選択
履修条件		数学Ⅰを履修していること。		
教材名・副教材名		新編 数学Ⅱ (数研出版) 3TRIAL 数学Ⅱ (数研出版)		
指導到達目標		図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに, それらを活用する態度を育てる。		
講座内容		<p>3 「図形と方程式」 座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し, その有用性を認識するとともに, 事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>4 「三角関数」 角の概念を一般角まで拡張して, 三角関数及び三角関数の加法定理について理解し, それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>5 「指数関数と対数関数」 指数関数及び対数関数について理解し, それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>6 「微分法と積分法」 微分・積分の有用性を認識するとともに, 事象の考察に活用できるようにする。</p>		
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	○図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	○座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり, 図形の性質を論理的に考察したりする力, 関数関係に着目し事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力, 関数の局所的な変化に着目し事象を数学的に考察したり, 問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力
評価方法		○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
数学		数学Ⅱ	数学Ⅱβ		3
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	選択	
履修条件		数学Ⅰを履修していること。			
教材名・副教材名		新編 数学Ⅱ (数研出版) 3TRIAL 数学Ⅱ (数研出版)			
指導到達目標		図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに, それらを活用する態度を育てる。			
講座内容		<p>3 「図形と方程式」 座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し, その有用性を認識するとともに, 事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>4 「三角関数」 角の概念を一般角まで拡張して, 三角関数及び三角関数の加法定理について理解し, それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>5 「指数関数と対数関数」 指数関数及び対数関数について理解し, それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>6 「微分法と積分法」 微分・積分の有用性を認識するとともに, 事象の考察に活用できるようにする。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<p>○図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</p> <p>○事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p>	<p>○座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり, 図形の性質を論理的に考察したりする力, 関数関係に着目し事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力, 関数の局所的な変化に着目し事象を数学的に考察したり, 問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。</p>	<p>○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。</p> <p>○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。</p>	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	<p>情報を分析し表現する力</p> <p>論理的・多面的に思考する力</p> <p>受容する力・対話する力</p>	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<p>○定期考査</p> <p>○確認テスト</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	<p>○定期考査</p> <p>○確認テスト</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	<p>○課題</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 第2節 円 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円 第3節 軌跡と領域 8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域	○座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ○座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ○図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解できるようにする。
	第2回	第4章 三角関数 第1節 三角関数 1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数の応用 第2節 加法定理 6. 加法定理 7. 加法定理の応用	○角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。 ○加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ○指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第3回	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数 第2節 対数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数	○対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ○微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。
後 期	第4回	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式 第2節 関数の値の変化 4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用 第3節 積分法 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積	○導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。 ○積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
数学		数学Ⅲ	数学Ⅲ		1
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	選択・理数	
履修条件		数学Ⅱを履修しておくこと。ただし、数学Ⅱβ、数学Bβを選択していることが望ましい。			
教材名・副教材名		新編 数学Ⅲ（数研出版） 3TRIAL 数学Ⅲ（数研出版）			
指導到達目標		極限について理解させ、基礎的な知識の習得と技術の習得を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
講座内容		<p>1 「関数」 分数関数や無理関数の性質を理解し、それを方程式や不等式の考察に活用できるようにする。</p> <p>2 「極限」 数列の極限や関数の極限について理解し、様々な極限を求められるようにする。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○極限についての概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	○数列や関数の値の変化に着目し極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力を身に付けている。	○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート	

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)	単位数
数学		数学 C	数学 Ca	1
履修学科		履修年次	期	履修形態
普通科		2	半期	選択
履修条件		数学 I を履修しておくこと。		
教材名・副教材名		新編 数学 C (数研出版) 3TRIAL 数学 C (数研出版)		
指導到達目標		ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
講座内容		<p>1 「平面上のベクトル」 向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示を含めてベクトルの演算ができるようになる。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるために活用できるようにする。</p> <p>2 「空間のベクトル」 平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。空間座標における点や図形について考察できるようにする。</p>		
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	<p>○ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</p> <p>○数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p>	<p>○大きさと向きをもった量に着目し演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目しそれらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</p>	<p>○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。</p> <p>○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。</p>
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力
評価方法		<p>○定期考査</p> <p>○確認テスト</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	<p>○定期考査</p> <p>○確認テスト</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	<p>○課題</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
後 期	第4回	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 第2節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示	○向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示を含めてベクトルの演算ができるようになる。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。 ○位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。
	第5回	第2章 空間のベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 6. 座標空間における図形	○平面上のベクトルの拡張として、空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名	科目名	講座名(校内名称)		単位数
数学	数学 B	数学 Ba		1
履修学科	履修年次	期	履修形態	
普通科	2	半期	選択	
履修条件	数学 I を履修しておくこと。			
教材名・副教材名	新編 数学 B (数研出版) 3TRIAL 数学 B (数研出版)			
指導到達目標	数列について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
講座内容	<p>1 「数列」</p> <p>基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、一般項や和を求められるようにする。和の記号Σの表し方や性質を理解し、活用できるようにする。数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにする。数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	<p>○数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</p> <p>○数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p>	<p>○離散的な変化の規則性に着目し事象を数学的に表現し考察する力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。</p>	<p>○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。</p> <p>○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。</p>
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
育てたい生徒像(資質・能力)との関連	幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法	<p>○定期考査</p> <p>○確認テスト</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	<p>○定期考査</p> <p>○確認テスト</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	<p>○課題</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和	○数列やその一般項の表し方について理解する。基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。
	第2回	第2節 いろいろな数列 6. 和の記号 Σ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和	○和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。
	第3回	第3節 漸化式と数学的帰納法 9. 漸化式 10. 数学的帰納法	○数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指 導 と 評 価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
外国語		プラクティカルイングリッシュ	プラクティカルイングリッシュa		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		LANDMARK English Communication I (啓林館) LANDMARK English Communication II (啓林館) 総合英語 FACTBOOK (桐原書店) 速読英単語 必修編 (Z会)			
指導到達目標		日常的・社会的な話題について、 ○必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 ○必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 ○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。 ○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 ○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。			
講座内容		○教科書の本文等を利用して、「読む」「書く」「聞く」「話す(やりとり)」「話す(発表)」という5領域を育成し、英語を総合的に学ぶ。 ○さまざまな題材を用いて英語による言語活動を行い、英語の学習を通じて、自らの力で考え、判断し、表現できる力を培う。 ○1年次で学んだ学習事項を系統的に整理しながら、2年次での学習内容へスムーズに移行できるように配慮するものとする。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	各トピックの内容で使われる表現の意味やはたらきを理解している。また、それぞれの表現について、その役割に応じて活用する技能を身につけている。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりしようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○定期考査 ○パフォーマンステスト ○小テスト	○定期考査 ○パフォーマンステスト	○小テスト ○提出物 ○授業態度の観察	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	English Communication I Lesson 1 Enjoy Your Journey ! Lesson 2 Curry Travels around the World Lesson 3 School Uniforms Lesson 4 Eco-Tour on Yakushima	<ul style="list-style-type: none"> ○英語を理解し、英語で表現する態度や能力を養う。 ○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけると同時に、的確かつ簡潔に答える能力を高め、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せる力を身につける。 ○授業中はペアやグループでの活動において、英語で意欲的かつ積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を養う。
	第2回	Lesson 5 Bailey the Facility Dog Lesson 6 Communication without Words Lesson 7 Dear World: Bana's War Lesson 8 The Best Education to Everyone, Everywhere	
	第3回	Lesson 9 Space Elevator Lesson 10 Friendship over Time English Communication II Lesson 1 A Swedish Girl's Discoveries in Japan Lesson 2 A Message from Emperor Penguins	
後 期	第4回	Lesson 3 Tokyo's Seven-minute Miracle Lesson 4 Seeds for the Future Lesson 5 Language Change over Time Lesson 6 Gaudi and His Messenger	
	第5回	Lesson 7 Letters from a Battlefield Lesson 8 Edo: A Sustainable Society Lesson 9 Biodiesel Adventure: From Global to Glocal	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)	単位数
数学		数学 C	数学 Cβ	1
履修学科		履修年次	期	履修形態
普通科		2	半期	選択・理数
履修条件		数学 I を履修しておくこと。		
教材名・副教材名		新編 数学 C (数研出版) 3TRIAL 数学 C (数研出版)		
指導到達目標		ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
講座内容		<p>1 「平面上のベクトル」</p> <p>向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示を含めてベクトルの演算ができるようになる。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるために活用できるようにする。</p> <p>2 「空間のベクトル」</p> <p>平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。空間座標における点や図形について考察できるようにする。</p>		
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	<p>○ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</p> <p>○数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p>	<p>○大きさと向きをもった量に着目し演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目しそれらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</p>	<p>○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。</p> <p>○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。</p>
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力
評価方法		<p>○定期考査</p> <p>○確認テスト</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	<p>○定期考査</p> <p>○確認テスト</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	<p>○課題</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
後 期	第4回	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 第2節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示	○向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示を含めてベクトルの演算ができるようになる。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。 ○位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。
	第5回	第2章 空間のベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 6. 座標空間における図形	○平面上のベクトルの拡張として、空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)	単位数
数学		数学 B	数学 Bβ	1
履修学科		履修年次	期	履修形態
普通科		2	半期	選択
履修条件		数学 I を履修しておくこと。		
教材名・副教材名		新編 数学 B (数研出版) 3TRIAL 数学 B (数研出版)		
指導到達目標		数列について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
講座内容		<p>1 「数列」</p> <p>基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、一般項や和を求められるようにする。和の記号Σの表し方や性質を理解し、活用できるようにする。数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにする。数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。</p>		
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	<p>○数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</p> <p>○数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p>	<p>○離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。</p>	<p>○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。</p> <p>○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。</p>
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力
評価方法		<p>○定期考査</p> <p>○確認テスト</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	<p>○定期考査</p> <p>○確認テスト</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	<p>○課題</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和	○数列やその一般項の表し方について理解する。基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。
	第2回	第2節 いろいろな数列 6. 和の記号 Σ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和	○和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。
	第3回	第3節 漸化式と数学的帰納法 9. 漸化式 10. 数学的帰納法	○数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指 導 と 評 価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
理科		生物基礎	生物基礎a		1
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		高等学校 生物基礎（数研出版） スクエア最新図説生物（第一学習社） リードa生物基礎（数研出版）			
指導到達目標		日常生活や社会と関連を図りながら，生物や生物現象について理解すると共に、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付ける。また、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。			
講座内容		第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とのはたらき 第3章 ヒトの体内環境の維持 第4章 生物の多様性と生態系			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的に探究に必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 ○生物に関する概念や法則を理解し，問題を解くことができる。 ○実験器具の使い方や方法を理解し，工夫を凝らし実験を行うことができる。	○生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、式や法則を見出すことができる。 ○実験結果をデータや式，グラフにまとめ，自分の考えを述べることができる。また，データやグラフを解析し，法則性や関係を見出すことができる。	○身のまわりの疑問を見つけ，それがどのように引き起こされるかを問い，探求していく態度が身についている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○定期考査 ○実験書	○定期考査 ○実験書	○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前	第1回	第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性 第2節 エネルギーと代謝 第3節 呼吸と光合成	生物の多様性と共通性について理解し、その共通性が共通の起源をもつことに由来することを学習する。
	第2回	第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝情報とDNA 第2節 遺伝情報の複製と分配 第3節 遺伝情報の発現	遺伝子の本体であるDNAについて、構造およびそのはたらきについて理解し、細胞に正確に複製されて受け継がれていくことを学習する。
期	第3回	第2章 ヒトの体内環境の維持 第1節 体内での情報伝達と調節 第2節 体内環境の維持のしくみ	多細胞生物において、体内環境がいかんして一定に保たれているかを理解する。さらに、そのしくみとして、循環系・腎臓と肝臓・自律神経系と内分泌系・免疫を学習する。
後	第4回	第3章 ヒトの体内環境の維持 第3節 免疫のはたらき	
		第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移 第2節 植生の分布とバイオーム	地球上に見られるさまざまな環境によってどのようなバイオームが分布しているかを学習する。また、人類が生態系のバランスに大きな影響を与えていることなどを身近な例から地球レベルの環境問題までを取り上げ自然環境を保全することが大切であることを理解する。
期	第5回	第5章 生物の多様性と生態系 第3節 生態系と生物の多様性 第4節 生態系のバランスと保全	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名	科目名	講座名(校内名称)		単位数
理科	物理基礎	物理基礎a		1
履修学科	履修年次	期	履修形態	
普通科	2	通期	一斉	
履修条件				
教材名・副教材名	高等学校 物理基礎 (第一学習社)			
指導到達目標	日常生活や社会と関連した題材をもとに、力学、熱、波動、電気の4つの分野について学び、身のまわりの疑問に対して、考える力を身につける。			
講座内容	<p>第I章 運動とエネルギー 複雑で、全く異なって見える種々の運動に、共通した法則性があることを学習する。</p> <p>第II章 熱 熱の実体とは何かを学び、熱の利用について考察する。</p> <p>第III章 波動 様々な波に共通する基本的な性質を学習する。また、音波に着目し、波としての音の性質について考える。</p> <p>第IV章 電気 電気に関する基本的な物理量を学習し、電気と密接に関わる磁気の性質を学ぶ。また、家庭に送られている電気がどのようにつくられているのか、その仕組みを学習する。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> ○気柱の共鳴に関する実験などを行い、物理現象を物理量と関連つけて理解することができる。 ○運動を表す式や法則を用いて、問題を解くことができる。 ○実験器具の使い方や方法を理解し、創意工夫を凝らし実験を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○電気抵抗の測定実験のようすなどをグラフで表し、それらから式や法則を見出すことができる。 ○実験結果をデータや式、グラフにまとめ、自分の考えを述べるることができる。また、データやグラフを解析し、法則性や関係を見出すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身のまわりの疑問を見つけ、それがどのように引きおこされるかを問い、探求していく態度を育むことができる。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
育てたい生徒像(資質・能力)との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い教養 ○高度な技術 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報を分析し表現する力 ○論理的・多面的に思考する力 ○受容する力・対話する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○協働する力 ○やり抜く力 	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実験 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実験書 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題 	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第Ⅱ章 熱 第1節 熱とエネルギー	①熱と温度について、原子や分子の熱運動の観点から理解する。 ②熱に関する実験などを行い、熱容量、比熱、熱量の保存などを理解する。
	第2回	第Ⅲ章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波	①ばねやひもなどを用いて波が伝わるようすを観察し、波の波長、振動数、波の伝わる速さなど、波の基本的な特徴を理解する。 ②波動実験器などを用いて、波の重ね合わせや独立性、定常波、波の反射について理解する。 ③気柱の共鳴に関する実験などを行い、気柱の共鳴と音源の振動数を関連づけて理解する。
	第3回	第Ⅳ章 電気 第1節 静電気と電流	①静電気について基本的な特徴を学び、帯電のしくみを理解する。 ②オームの法則を学習し、電気抵抗の測定実験などを通して、導体の長さ、断面積と電気抵抗の関係を扱い、物質の抵抗率について理解する。 ③ジュール熱が発生するしくみを学び、電力量と電力について理解する。
後 期	第4回	第Ⅳ章 電気 第2節 電流と磁場	①磁場の性質について学び、電流がつくる磁場の特徴を理解する。 ②モーターと発電機のそれぞれの原理について理解する。 ③直流と交流の性質を学習し、発電や送電について、交流発電機や変圧器と関連づけて理解する。 ④電磁波の特徴を学び、電磁波が現代の社会生活に広く利用されていることを理解する。
	第5回	第Ⅳ章 電気 第3節 エネルギーとその利用	①太陽光、水力、風力、化石燃料、原子力などを源とするエネルギーの特性や利用などについて、電気エネルギーへの変換を中心に、物理的な観点から理解する。 ②放射線の種類と性質、放射性物質の基本的な性質、および原子力の利用とその課題について理解する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指 導 と 評 価

教科名	科目名	講座名(校内名称)		単位数
公民科	公共	現代研究a		1
履修学科	履修年次	期	履修形態	
普通科	2	通期	一斉(人文系)	
履修条件				
教材名・副教材名	高等学校公共(第一学習社) フォーラム公共(とうほう)			
指導到達目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
講座内容	<p>○現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>○よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	○現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から論理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	○資料を通し、現代社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる。	○探究的な活動を通して、他者の考えを踏まえたり取り入れたりして、考えたことを再構築しながら議論することができる。その活動を通して、よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
育てたい生徒像(資質・能力)との関連	幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法	○定期考査 ○発問評価	○定期考査 ○ディベート	○グループディスカッション ○授業参加の態度	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	～ 第2回	<ul style="list-style-type: none"> ○主題1 法や規範の意義と役割 <ul style="list-style-type: none"> 1 私たちの生活と法 2 法と基本的人権 3 自由・平等と法・規範 4 法をよりよく変えていくために ○主題3 司法参加の意義 <ul style="list-style-type: none"> 1 裁判所と人権保障 	<ul style="list-style-type: none"> ○法を通して、身の周りの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について理解し、その解決について考察する。 ○個人や社会の紛争を法に基づいて解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。
後 期	～ 第4回 ～ 第5回	<ul style="list-style-type: none"> ○主題4 政治参加と公正な世論の形成 <ul style="list-style-type: none"> 1 選挙の意義と課題 2 政治参加と世論形成 5 地方自治と住民の福祉 ○主題8 雇用と労働問題 <ul style="list-style-type: none"> 2 労働者の権利と労働問題 ○ケーススタディ <ul style="list-style-type: none"> 1 地球環境問題 2 資源エネルギー問題 3 生命倫理 	<ul style="list-style-type: none"> ○民主主義を推進するために、私たちが果たすべき責任・選挙の意義や課題、世論の形成や政党の役割や主権者である国民と国会・内閣の関係を理解することができる。地域社会の課題に、私たちの意思を反映させるにはどうすればよいかを考え、理解する。 ○グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどのように考えていけばよいかを考える。 ○持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立する主体となることに向けて、幸福・正義・公正などに着目して現代の諸課題を探究する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
芸術		音楽Ⅱ	音楽Ⅱα		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		MOUSA 2 (教育芸術社)			
指導到達目標		<p>○曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>○個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができる。</p> <p>○主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養うことができる。</p>			
講座内容		<p>○歌唱においては、斉唱・混声3部合唱。</p> <p>○器楽ではギター、箏を使用する。</p> <p>○鑑賞では、CD・DVD・楽器実演奏、等を用いる。</p> <p>年間を通して音楽の幅広い知識を身につける。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、関わりについて考えるとともに、どのように音楽をつくりあげるかについて独自の表現意図をもっている。	曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○振り返りシート ○小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○鑑賞課題 ○振り返りシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○鑑賞課題 ○振り返りシート 	

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
芸術		美術Ⅱ	美術Ⅱ		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	選択	
履修条件		美術Ⅰを履修済み			
教材名・副教材名		美術Ⅱ			
指導到達目標		<p>○絵画・デザイン・映像メディアなど、美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、表現する能力を伸ばすとともに、美術を愛好する心情を養う。</p> <p>○課題の導入として鑑賞活動を、課題の終わりに生徒作品の相互鑑賞やプレゼンテーションを取り入れ、様々なものに触れあう機会を作り、感じたことや思ったことを言葉にまとめる力を身につける。</p>			
講座内容		<p>○アイディアスケッチ等を活用し、自分の考えや表現したいイメージを整理したり、より深く追求したりしていく。</p> <p>○教科書に掲載されている作品を鑑賞し、その特徴や表現方法を学びながら、創造活動の幅を広げる。</p> <p>○作品完成後にお互いの作品を鑑賞し、表現の違いや良さについて考える。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<p>○表現および鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方について理解を深める。</p> <p>○教材や用具の特性を生かして、自分の意図に応じて表現方法を工夫し、創造活動を行うことができる。</p>	<p>○アイディアスケッチで自分の思いや考えをまとめることができている。</p> <p>○授業を振り返り、感じたことや学んだことをまとめることができる。</p>	<p>○他者の考え方を尊重しながら自分の意見や考えを持ち、作品に反映しようとしている。</p> <p>○感じたことや考えていることを自分の言葉でまとめている。</p>	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		<p>○幅広い教養</p> <p>○高度な技術</p>	<p>○情報を分析し表現する力</p> <p>○論理的・多面的に思考する力</p> <p>○受容する力・対話する力</p>	<p>○協働する力</p> <p>○やり抜く力</p>	
評価方法		<p>○授業態度の観察</p> <p>○提出作品</p>	<p>○授業態度の観察</p> <p>○ワークシート</p> <p>○振り返りシート</p> <p>○アイディアスケッチ</p>	<p>○授業態度の観察</p> <p>○ワークシート</p> <p>○振り返りシート</p> <p>○アイディアスケッチ</p>	

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
芸術		書道Ⅱ	書道Ⅱα		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		書Ⅱ（教育図書）			
指導到達目標		<p>○楷書・行書・仮名の書用の筆法・運筆法を身につけ、それぞれの書体の持つ美しさを感じることができるようにする。</p> <p>○臨書で培った筆法により、創作の中で自分の心象風景を表現できるようにする。</p> <p>○古今の名作や他の生徒の作品を鑑賞する中で、自分の考えや感じたことを話せるようにする。</p> <p>○様々な書活動を通じて生涯にわたり書を愛好する心情を養う。</p>			
講座内容		<p>○書道Ⅰの内容をふまえ、書写からより芸術的書道の内容に深く入っていく。</p> <p>○おもに創作を中心に書きたい語句を選択し、美しく表現した上で、作品として鑑賞できるよう、表具も仕上げる。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<p>書の表現の方法や形式、多様性などについて理解している。</p> <p>書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付け、表している。</p>	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりする。</p>	主体的に書の創造的な諸活動に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	<p>情報を分析し表現する力</p> <p>論理的・多面的に思考する力</p> <p>受容する力・対話する力</p>	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<p>○授業態度の観察</p> <p>○作品の評価</p>	<p>○授業態度の観察</p> <p>○作品の評価</p> <p>○鑑賞課題の点検</p>	<p>○授業態度の観察</p> <p>○発表態度の観察</p> <p>○鑑賞課題の点検</p>	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期		楷書	○様々な楷書を比較することで表現の多様性を理解し、作品制作に活用することができるようにする。
		行書	○様々な行書を比較することで表現の多様性を理解し、作品制作に活用することができるようにする。
		漢字仮名交じりの書	○表現と用具・用材との関係を理解し、漢字と仮名の調和した線質の表し方、字形や文字の大きさと全体構成の表し方を工夫し、意図に基づく表現ができるようにする。
後 期		刻字	○漢字仮名交じりの書を立体化することによる刻線のよさや美しさを理解し、表現を工夫することができるようにする。
		写経	○用具・用材の特徴や扱い方、小筆の用筆法・運筆法を理解し表現できるようにする。
		仮名の書	○仮名の点画や線質の表し方と用筆法・運筆法を理解し表現できるようにする。 ○単体・連綿と全体の構成を考え、意図に基づく表現の構想と工夫ができるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
外国語		エッセイライティング I	エッセイライティング I a		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		FACTBOOK English Logic and Expression II (桐原書店) FACTBOOK English Logic and Expression II Workbook (桐原書店) Active Writing Complete Course (第一学習社) 総合英語 FACTBOOK (桐原書店) 速読英単語 必修編 (Z会)			
指導到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。 ○ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。 			
講座内容		<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、ニュースや新聞記事などを聞いたり読んだりして、論点を整理した上で、それらを活用して情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。 ○ 社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、スピーチや講義、英文資料などを聞いたり読んだりして、論点を整理した上で、それらを活用して意見や主張などを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。 			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	自分の意見を、論理の構成や展開を工夫して書いて伝えるために必要となる語句や表現を理解している。	日常的话题や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して書いて伝えている。	日常的话题や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して書いて伝えようとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○ パフォーマンステスト ○ 小テスト	○ パフォーマンステスト	○ 小テスト ○ 提出物 ○ 授業態度の観察	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	Stage 1 文法・構文の「型」をインプットする Lesson 1 主語の決定 Lesson 2 数の表現, 主語と動詞の一致 Lesson 3 時制の感覚 Lesson 4 受動態の使いどころ Lesson 5 関係詞と同格のthat Lesson 6 論理展開を示す表現 (接続詞・副詞・前置詞) Lesson 7 比較・仮定法の重要表現	○自分の意見を, 論理の構成や展開を工夫して書いて伝えるために必要となる語句や表現を正しく理解させる。 ○日常的な話題や社会的な話題について, 情報や考え, 気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して書いて伝えることができる力を養う。 ○授業中はペアやグループでの活動において, 英語で意欲的かつ積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を養う。
	第2回	Stage 2 トピックごとの表現をインプットする Lesson 8 自然環境 (気候・天候, 資源) Lesson 9 社会生活 (社会問題, ニュース, 交通) Lesson 10 日常生活 (余暇, 健康・医療) Lesson 11 文化 (言語, 学校教育, 異文化) Lesson 12 科学技術 (エネルギー, 情報技術)	
	第3回	Stage 3 長めの英作文 Lesson 13 論説文の一部を英訳する① Lesson 14 論説文の一部を英訳する② Lesson 15 会話や物語文の一部を英訳する	
後 期	第4回	Stage 4 自由英作文 Lesson 16 自分の意見を論述する① Lesson 17 自分の意見を論述する② Lesson 18 自分の意見を論述する③ Lesson 19 会話や手紙を創作する Lesson 20 表やグラフについて記述する Lesson 21 イラストなどで描写する	
	第5回	Stage 5 「小論文型」の英作文 Lesson 22 課題文について意見を論述する	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指 導 と 評 価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
数学		数学探究	数学探究a		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名					
指導到達目標		数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C の各単元について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。			
講座内容		数学Ⅰ 「数と式」「集合と命題」「2次関数」「図形と計量」「データの分析」 数学A 「場合の数と確率」「図形の性質」 数学Ⅱ 「式と証明」「複素数と方程式」「図形と方程式」「三角関数」「指数・対数関数」「微分・積分」 数学B 「数列」 数学C 「ベクトル」			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。 	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題 ○行動観察 ○ワークシート 	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ○場合の数と座標平面 ○2次関数の係数とグラフ ○三角形の最大角・最小角 ○身近なデータの分析 	<ul style="list-style-type: none"> ○$a+b=n$について考察した後、座標平面の軸を変え $a+b+c=m$についても考察させる。 ○グラフ作成ソフトを使い、係数値を変化させたときのグラフの変化を観察し、関係性に気づかせる。また、y軸との交わり方に注目させ、bの値との関係性に気づかせる。 ○てこクラク機構の簡単な模型を使い、動かし、観察させる。頂点の動く範囲に注目させ、そこから特定の角の最大値・最小値を考察させる。 ○データの処理ではなく、分析が重要であるため、散布図等の作成はコンピュータを活用させる。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ○二人令和有限確定完全情報ゲーム ○ベイズの定理 	<ul style="list-style-type: none"> ○三目並べゲームを行い、初手と2手目までの場合の数を考えさせ、先手の初手の最善手を考察させる。 ○証明のために必要となる知識を学ばせる。数値の処理にコンピュータを活用させる。
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ○震度と対数 ○定積分と囲まれる面積 	<ul style="list-style-type: none"> ○揺れの大きさを表す単位 $G a l$ を用いたグラフと震度で表したグラフを比較させて、その違いを考察させる。対数関数のグラフの特徴から震度で表す必要性に気づかせる。 ○曲線と x 軸で囲まれる面積を長方形の面積と比較して、極限の考えを使うことで定積分と面積の関係性に気づかせる。
後 期	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ○フィボナッチ数列 ○複利計算 	<ul style="list-style-type: none"> ○隣接3項間の漸化式の解き方を学習させ、フィボナッチ数列の一般項を求めさせる。パスカルの三角形を書き換えることで、その和にフィボナッチ数列が含まれていることに気づかせる。それを計算し、フィボナッチ数列になることを証明させる。 ○現実社会で設定されている数値をもとに考察させ、指数関数の有用性に気づかせる。また、等差数列や等比数列の知識も活用されていることに気づかせる。
	第5回	<ul style="list-style-type: none"> ○ベクトル方程式 	<ul style="list-style-type: none"> ○直交座標平面上での直線の図示について復習した後、ベクトル方程式についても斜交平面上で同様に考えられることに気づかせる。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
国語		国語探究	国語探究a		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		高等学校 現代の国語（第一学習社） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
指導到達目標		<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>1.生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>2.深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。</p> <p>3.言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>			
講座内容		<p>○論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>○主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解する力を培う。</p> <p>○個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるように工夫する力を身につける。</p> <p>○論理的な文章や実用的な文章を読みその内容や形式について批評したり討論したりする能力を育成する。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとし、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として国語を尊重してその能力の向上を図ろうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○授業態度の観察 ○定期考査 ○小テスト ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○課題の点検 ○発表態度の観察	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○発表態度の観察	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	ア 実用的な文章 (ア) 文章の比較・発表 (イ) 小論文・意見文	○新聞記事や報道文を読み、表現の特徴に注意して筆者の意図を的確に捉え、自分に引き寄せて考える。 ○小論文の型を習得し、自己評価と相互評価を行い、表現効果を吟味して論理的文章を書く力を養成する。 ○社会と人間の在り方を主題とする意見文を読み、自己の価値観と照らし合わせて考える。 ○絵画や地図、様々な情報を参考にして実用的な文章や論理的な文章を読み、構成・展開・要旨を的確に理解する。
	第2回		
	第3回		
後 期	第4回	イ 論理的な文章 (ア) 内容読解・要約 (イ) 小論文・意見文	
	第5回		

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
保健体育		スポーツ I	スポーツ I a		
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		現代高等保健体育（大修館書店）			
指導到達目標		<p>○採点競技及び測定競技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につける。</p> <p>○採点競技及び測定競技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>○採点競技及び測定競技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。</p>			
講座内容		<p>講座内容</p> <p>1 「採点競技」については、主に体操競技を、「測定競技」については、主に陸上競技を取り扱い、技能の向上を図る。</p> <p>2 スポーツを推進及び発展するための事項を理解できるようにし、体力や技能の程度、性別や目的、障害の有無など様々な違いを超えてスポーツを楽しむために調整し合意したマナーを実践する力を身につける。</p> <p>3 映像や記録など客観的なデータから、動きの改善点の妥当性やより効果的な改善策について分析したことを、根拠を示し伝えることができる力を育てる。</p> <p>履修上の注意</p> <p>本校規定の体操服、体育館シューズ、グラウンドシューズをきちんと着用し、指導教員の指示をよく聞いて、安全に留意して授業を受けること。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	スポーツを推進及び発展するための事項を理解し、多様な楽しさや喜びを深く味わうための技能を身につけている。	映像や記録など客観的なデータから、動きの改善点の妥当性やより効果的な改善策について分析したことを、根拠を示し伝えることができる。	準備や片付け、グループや集団の中での公正・協力・責任など主体的かつ積極的に学びに向かうことができる。また、健康安全に留意しながら活動を行おうとする。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 理論的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○スキルテスト ○授業観察 ○まとめプリント相互評価 など	○授業観察 ○まとめプリント記述 ○相互評価 など	○授業観察 ○選択ノート ○まとめプリント ○相互評価 など	

指 導 と 評 価

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数	
情報	情報Ⅱ	情報Ⅱ		
履修学科	履修年次	期	履修形態	
普通科	2	通期	一斉	
履修条件				
教材名・副教材名	高校情報Ⅱ（実教出版）			
指導到達目標	<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決を行う学習活動を通じて、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>（1）多様なコミュニケーションの実現、情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報技術の発展と社会の変化について理解を深めるようにする。</p> <p>（2）様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用する力を養う。</p> <p>（3）情報と情報技術を適切に活用するとともに、新たな価値の創造を目途、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与する態度を養う。</p>			
講座内容	第1章 情報社会 第2章 データサイエンス 第3章 プログラミング言語 発 展 プロジェクト問題			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法律・規則やマナー、個人が果たす役割や責任等について情報の科学的な理解に裏打ちされた形で理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能を身に付けている。	様々な事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力や、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けている。	情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に主体的に参画し、その発展に起用しようとする態度を身に付けていること。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
育てたい生徒像（資質・能力）との関連	幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実技試験 ○実習 ○授業の活動 ○提出物 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実技試験 ○実習 ○授業の活動 ○提出物 	<ul style="list-style-type: none"> ○実習 ○授業の活動 ○提出物 	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第2回	第1章 情報社会	<ul style="list-style-type: none"> ○情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する学習活動を通して、問題を発見・解決する方法を身に付ける。 ○情報技術が人や社会に果たす役割と影響や情報モラルなどについて理解し、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決し望ましい情報社会の構築に寄与する力を養う。 ○目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通じて、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、メディアの特性やコミュニケーション手段の特徴について科学的に理解するようにし、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を身に付ける。
		第2章 データサイエンス	<ul style="list-style-type: none"> ○問題の発見・解決に活用するために、必要なデータの収集について、選択・判断する力、それにに応じて適切なデータの整理や変換の方法を判断する力、分析の目的に応じた方法を選択・処理する力、その結果について多面的な可視化を行うことにより、データに含まれる傾向を見いだす力を養う。
後 期	第3回	第3章 プログラミング言語	<ul style="list-style-type: none"> ○コンピュータの仕組みや特徴を理解し、目的に応じたアルゴリズムを考え、モデル化やシミュレーションを適切な方法で表現し、その結果を踏まえて問題の適切な解決方法を考え、思考力・判断力・表現力等を身に付ける。
	第4回	第4章 情報システム	<ul style="list-style-type: none"> ○情報通信ネットワークや情報システムにより、提供されるサービスを活用する活動を通して、情報通信ネットワークや情報システムの仕組みを理解する。 ○データを蓄積・管理・提供する方法、データを収集、整理、分析する方法、情報セキュリティを確保する方法を身に付ける。
		発展 プロジェクト問題	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
理科		化学基礎	化学基礎β		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	前期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		<ul style="list-style-type: none"> ○ 化学基礎（東京書籍） ○ リード Light 化学基礎+化学（数研出版） 			
指導到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ○ 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ○ 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。 			
講座内容		<p>I 化学と人間生活</p> <p>1 化学とは何か 2 物質の成分と構成元素</p> <p>II 物質の構成</p> <p>1 原子の構造と元素の周期表 2 化学結合</p> <p>III 物質の変化</p> <p>1 物質と化学反応式 2 酸と塩基 3 酸化還元反応 4 化学が拓く世界</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	化学と物質についての実験などを通して、化学の特徴について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	化学の特徴について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	化学の特徴に関する事象・現象について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期考査 ○ 観察・実験 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期考査 ○ 観察・実験 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小テスト ○ 課題 	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
通 期	第1回	I 化学と人間生活 1 化学とは何か	○ 化学と物質について、化学の特徴を理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。
	第2回	2 物質の成分と構成元素	○ 化学と物質について、物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と三態のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。
	第3回	II 物質の構成 1 原子の構造と元素の周期表	○ 物質の構成粒子について、原子の構造、電子配置と周期表のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。
	第4回	2 化学結合	○ 物質と化学結合について、イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。
	第5回	III 物質の変化 1 物質と化学反応式	○ 物質と化学反応式についての実験などを通して、物質と化学反応式のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
理科		化学	化学		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	後期	選択	
履修条件		欠課時数が授業時数の1/2を超えないこと。			
教材名・副教材名		<ul style="list-style-type: none"> ○ 化学 Vol.1 理論編 (東京書籍) ○ スクエア最新図説化学 (第一学習社) ○ リードα化学基礎+化学 (数研出版) 			
指導到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ○ 化学的な事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ○ 化学的な事物・現象を観察・実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 ○ 日常生活や社会の化学的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。 			
講座内容		I 物質の状態 1 物質の状態 2 気体の性質 3 溶液の性質 4 固体の構造 II 化学反応とエネルギー 1 化学反応と熱・光 2 電池と電気分解 III 化学反応の速さと平衡 1 化学反応の速さ 2 化学平衡 3 水溶液中の化学平衡			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	化学と物質についての実験などを通して，化学の特徴について理解しているとともに，科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	化学の特徴について，問題を見だし見通しをもって実験などを行い，科学的に考察し表現しているなど，科学的に探究している。	化学の特徴に関する事物・現象について主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期考査 ○ 観察・実験 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期考査 ○ 観察・実験 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小テスト ○ 課題 	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
通 期	第4回	I 物質の状態 1 物質の状態 2 気体の性質 3 溶液の性質 4 固体の構造	
	第5回	II 化学反応とエネルギー 1 化学反応と熱・光 2 電池と電気分解	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
国語		文学国語	文学国語 (文学国語a)		1
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	一斉	
履修条件		2・3年次継続履修			
教材名・副教材名		文学国語 (東京書籍) 頻出漢字マスター3000 (尚文出版) イラストとネットワークで覚える 現代文単語 げんたん (いっずな書店) デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧 (大修館書店)			
指導到達目標		<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>1.生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>2.深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。</p> <p>3.言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>			
講座内容		<p>○情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>○文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。</p> <p>○文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引きつける独創的な文章になるよう工夫する力を身につける。</p> <p>○文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える能力を育成する。</p> <p>○人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとし、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像 (資質・能力) との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○定期考査 ○小テスト ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○定期考査 ○課題の点検 ○発表態度の観察 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○課題の点検 ○発表態度の観察 	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	1 随筆 2 小説1 4 小説2	<ul style="list-style-type: none"> ○随筆につづられている筆者の感じ方や思いを読み取り，ものの見方を広げる。 ○登場人物の心情を表現に即して把握し，主人公の内面と苦悩について考える。 ○小説を読み，そこに込められた寓意や描かれた人々の姿から，生きることへの考えを深める。 ○詩歌や俳句と，俳句に関する評論を読み，詩歌の表現の特色を理解して味わう。 ○小説における場面展開や人物の性格・心理の描写を読み取る。 ○物語の展開や状況の変化に注意して小説を読み，現代の社会や自らの生活を捉え直す。
	第2回		
	第3回		
後 期	第4回	5 詩歌 6 小説3 8 小説4	
	第5回		

* 年間指導計画は予定であり，変更がある場合には，連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
理科		化学基礎	化学基礎a		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		<ul style="list-style-type: none"> ○ 化学基礎（東京書籍） ○ リード Light 化学基礎+化学（数研出版） 			
指導到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ○ 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ○ 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。 			
講座内容		I 化学と人間生活 1 化学とは何か 2 物質の成分と構成元素 II 物質の構成 1 原子の構造と元素の周期表 2 化学結合 III 物質の変化 1 物質と化学反応式 2 酸と塩基 3 酸化還元反応 4 化学が拓く世界			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	化学と物質についての実験などを通して、化学の特徴について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	化学の特徴について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	化学の特徴に関する事象・現象について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期考査 ○ 観察・実験 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期考査 ○ 観察・実験 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小テスト ○ 課題 	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
通 期	第1回	I 化学と人間生活 1 化学とは何か	○ 化学と物質について、化学の特徴を理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。
	第2回	2 物質の成分と構成元素	○ 化学と物質について、物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と三態のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。
	第3回	II 物質の構成 1 原子の構造と元素の周期表	○ 物質の構成粒子について、原子の構造、電子配置と周期表のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。
	第4回	2 化学結合	○ 物質と化学結合について、イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。
	第5回	III 物質の変化 1 物質と化学反応式	○ 物質と化学反応式についての実験などを通して、物質と化学反応式のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
理科		物理	物理β		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		2	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		高等学校 物理 (第一学習社)			
指導到達目標		日常生活や社会と関連した題材をもとに、力学、熱、波動、電気、原子の5つの分野について学び、身のまわりの疑問に対して、考える力を身につける。			
講座内容		<p>第Ⅰ章 運動とエネルギー 「物理基礎」で学んだ力のはたらきや運動方程式などを利用して、種々の運動にみられる法則性について学習する。</p> <p>第Ⅱ章 波動 波の一般的な性質を学び、音波、光波のそれぞれに見られる特徴的な現象について考察する。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の衝突や波の性質を確認する実験などを行い、様々な物理現象の法則性を理解することができる。 ○運動を表す式や法則を用いて、問題を解くことができる。 ○実験器具の使い方や方法を理解し、創意工夫を凝らし実験を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動している物体や気体分子、光の実験のようすを図や矢印で表し、それらから式や法則を見出すことができる。 ○実験結果をデータや式、グラフにまとめ、自分の考えを述べるることができる。また、データやグラフを解析し、法則性や関係を見出すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身のまわりの疑問を見つけ、それがどのように引き起こされるかを問い、探求していく態度を育むことができる。 	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い教養 ○高度な技術 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報を分析し表現する力 ○論理的・多面的に思考する力 ○受容する力・対話する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○協働する力 ○やり抜く力 	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実験 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実験書 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題 	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第I章 運動とエネルギー 第1節 平面運動と放物運動 第2節 剛体のつりあい	①平面運動をする物体の変位、速度、加速度がベクトルで表されることを学習し、速度の合成、相対速度についても理解する。 ②力のモーメントとは何かを理解する。 ③大きさのある物体のつりあいに関する実験などを行い、剛体がつりあう条件を見出して理解する。 ④物体の重心について理解する。また、日常生活とのかかわりの中で、防災などの観点から、物体が転倒しない条件についても理解する。
	第2回	第I章 運動とエネルギー 第3節 運動量の保存 第4節 円運動と単振動	①運動量の性質を学習し、運動量と力積との関係について理解する。 ②物体の衝突や分裂に関する実験などを行い、運動量保存の法則について理解する。 ③反発係数について学習し、物体の衝突における力学的エネルギーの変化を考察する。 ④円運動をする物体のようすを表す方法や、物体にはたらく力などを理解する。また、慣性力について理解する。
	第3回	第I章 運動とエネルギー 第4節 円運動と単振動 第5節 気体の性質と分子の運動	①単振動をする物体のようすを表す方法や、物体にはたらく力などを理解する。 ②惑星の運動に関する法則や、万有引力の法則、万有引力による物体の運動について理解する。 ③気体について成り立つ法則を理解する。 ④気体の圧力や温度を気体分子の運動と関連づけて学習し、気体の内部エネルギーについて理解する。 ⑤気体の状態変化について、熱、仕事、内部エネルギーの関係を学習し、熱機関のしくみを理解する。
後 期	第4回	第II章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波	①水波投影装置を用いた観察などを通して、光の干渉について理解する。 ②波の伝わり方（反射、屈折、回折）について、ホイヘンスの原理をもとに理解する。 ③身のまわりの現象と関連づけて、波としての音の性質（反射、屈折、回折、干渉）について理解する。 ④ドップラー効果について、観測者と音源が同一直線上を動く場合を中心に理解する。
	第5回	第II章 波動 第3節 光波	①波としての光の性質を学び、光の反射、屈折、分散、散乱、偏光について理解する。 ②レンズや鏡について、光の進路の規則性や像のでき方を理解する。 ③光の回折と干渉に関する実験などを行い、回折と干渉について光波の性質と関連づけて理解する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名	科目名	講座名(校内名称)		単位数
理科	生物	生物β		3
履修学科	履修年次	期	履修形態	
普通科	2	通期	一斉	
履修条件				
教材名・副教材名	生物（数研出版） スクエア最新図説生物（第一学習社） ニューグローバル生物基礎＋生物（東京書籍）			
指導到達目標	生物や生物現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養う。			
講座内容	第1章 生物の進化 第2章 生命現象と物質 第3章 代謝 第4章 遺伝情報とその発現			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	生物現象についての観察，実験を通して，生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的に探究するために必要な観察，実験，調査等に関する基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象を対象に，問題を見いだすための観察，実験，調査及び，報告書の作成・発表などを行うことにより，科学的に探究する力が身に付いている。	生物現象に主体的に関わり，それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとしている。生命を尊重し，環境の保全に寄与する態度や自然の事物・現象を考察しようとする態度が身についている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
育てたい生徒像（資質・能力）との関連	幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法	○定期考査 ○実験書	○定期考査 ○実験書	○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第1章 生物の進化	
		1. 生命の起源と生物の進化	生物の多様性と共通性, 原始地球と有機物の生成 有機物から生物へ, 生物の出現とその発展, 真核生 物の出現
	第2回	2. 遺伝子の変化と多様性	遺伝子の突然変異によって, 遺伝的な多様性が生じ ることを理解する。
		3. 遺伝子の組み合わせの変化	減数分裂と受精, 染色体と遺伝子, 遺伝子の組み 合わせの変化遺伝子と形質, ゲノムの多様性
		4. 進化のしくみ	進化と突然変異, 集団としての進化, 実際の生物集 団と進化, 種分化
		5. 生物の系統と進化	生物の分類, 生物の系統と系統樹, 生物の系統と 分類
後 期	第3回	6. 人類の系統と進化	人類の祖先, 人類の進化
		第2章 細胞と分子	
		1. 生体物質と細胞	細胞を構成する物質, 原核細胞と真核細胞の構造 真核細胞の構造と機能, 生体膜の構造
		2. タンパク質の構造と性質	タンパク質とは, タンパク質の構造, タンパク質の立体 構造と機能
	第4回	3. 化学反応にかかわるタンパク質	酵素の基本的なはたらき, 酵素のはたらきと反応条 件, 酵素反応の調節
4. 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質		膜輸送にかかわるタンパク質, 情報伝達にかかわるタン パク質	
後 期	第4回	第3章 代謝	
		1. 代謝とエネルギー	生物とエネルギー, 生体内の化学反応
		2. 呼吸と発酵	呼吸とは, 呼吸の過程, 発酵, 脂肪とタンパク質の 分解
	第5回	3. 光合成	光合成とは, 光合成のしくみ, 細菌の光合成
		第4章 遺伝情報の発現と発生	
1. DNAの構造と複製		DNAの構造, DNAの複製	
後 期	第5回	2. 遺伝情報の発現	遺伝情報とその発現, 転写とスプライシング, 翻訳, 真核細胞と原核細胞のタンパク質合成の違い
		3. 遺伝子の発現調節	遺伝子の発現調節, 原核生物の発現調節, 真核生 物の発現調節

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。